杉並区

令和４年７月発行　第27号

在宅医療地域ケア通信

在宅医療と介護の今

今号の内容

●今年度の在宅医療地域ケア会議の予定 ―令和4年度の全体会開催 …… 1面
●在宅医療地域ケア会議　今期のリーダー医師はこんな人（その1） …… 2～3面
●「杉介（すかい）ネット」登録数は着実に増加 ―多職種連携オンライン講習会 …… 4面
●大好評の「わたしの思い手帳」 …… 4面

今年度の在宅医療地域ケア会議の予定 ―令和4年度の全体会開催

令和4年度の在宅医療地域ケア会議（以下、地域ケア会議）の全体会を、5月25日にオンラインで開催しました。杉並区内7圏域の運営委員が参加し、今年度の地域ケア会議の進め方などについて話し合いました。昨年度はコロナ禍のため、各圏域とも1回の開催にとどまりましたが、区からは今年度の開催は1～2回とするという提案がなされました。圏域ごとのグループワークでは、開催時期・方式やテーマなどについて話し合いました。

●実施報告の記載内容を改善

区が昨年度の地域ケア会議の実施結果を報告しました。あわせて、各圏域が作成する実施報告書の様式変更に関する提案をしました。地域ケア会議で話し合われた内容（具体的な意見や疑問、抽出された課題など）について詳しく記載するように変更しています。せっかく意義のある話し合いがされていても、実施報告書に十分反映されていないなどのケースが見受けられたためです。報告書の内容が他の圏域と共有されていないことも反省点でした。区は「今後は地域ケア会議で出された成果や課題を積み上げ、具体的な取り組みについて検討するための参考にする」としています。

●地域ケア会議のテーマは圏域によってさまざま

圏域ごとのグループワークで話し合われた内容は以下のとおりです。

【井草圏域】1回目を9～11月に対面で開催予定。バイタルリンクなどのICT（情報通信技術）の活用について、講義やディスカッションを交えて行う。

【西荻圏域】1回目を9～10月に対面で開催予定。災害時の介護事業所の危機管理を含め、在宅医療におけるBCP（事業継続計画）をテーマとする。

【荻窪圏域】区内の医療・介護従事者向けのアンケート内容を基に、できれば2回（1回目は年内）開催したい。皆さんが参加しやすいのはオンラインだと思う。

【阿佐谷圏域】10月と2月の2回開催（できれば対面）を予定している。テーマは日常の療養支援。

【高円寺圏域】まずは10～11月に対面で開催の予定。コロナ患者の看取り、認知症の方の在宅支援などをテーマ候補とする。

【高井戸圏域】1回目は10～11月に対面開催の方向で検討している。2回目は2～3月の予定。テーマはコロナ禍における退院支援などを考えている。

【方南・和泉圏域】対面とオンラインを1回ずつの計2回（10月と1～3月）開催を目指す。テーマは多職種連携の困りごと。

〈会議終了時の記念撮影〉

在宅医療地域ケア会議　今期のリーダー医師はこんな人（その１）

各圏域のリーダー医師を取材し、ご自身のこと、在宅医療地域ケア会議（以下、地域ケア会議）のことなどについてお伺いしてきました。今号と次号に渡ってご紹介します。

コロナと対峙し、走り続ける

高円寺圏域：小島　淳 医師（こじま内科）

自己紹介

慈恵医科大学を卒業して、約10年間は同大病院で主に呼吸器内科を経験しました。呼吸器内科は肺炎をはじめ、肺がん、アレルギー、喘息、感染症など多くの疾患を診るのでやりがいを感じています。父親が高円寺南で開業した「こじま内科」を2016年4月に継ぎました。大学病院では「診断がついた人」を診ますが、クリニックではゼロからです。幼児から高齢者まで患者さんの主訴を聞いて、その背景に何が隠れているかを探る作業は神経を使います。コロナ禍では、呼吸器が専門の私がコロナ患者を診ないという選択肢はなく、一般診療と時間帯を分けて発熱外来を続けています。

↑コロナの診療について区長から表彰されました。

趣味

趣味の一つは高校時代から大学まで続けていた陸上の長距離走です。毎夏行われていた東日本医科大学対抗選手権では、3000メートル障害で入賞したこともあります。研修医時代以降は中断していましたが、コロナ禍の受診控えで手が空いた時、約20年ぶりに再開しました。診療の合間や夜に練習したり、土日に石神井公園辺りまで10キロ以上走ったりしました。フルマラソンの記録会では4時間を切り、今は3時間半切りを目指しています。

地域ケア会議について

高円寺圏域の地域ケア会議は、昨年区内では唯一対面で行いました。対面の方が話が弾んで「顔の見える関係」が作りやすいと思ったためです。父親の時代は来る患者さんを診ていれば良かったのですが、情報社会の今は、杉並区内や圏域の医療・介護情報を知るべく常にアンテナを張っておく必要があります。圏域の医師会の月例会では、多職種が集う地域ケア会議こそが情報を共有できる場であることをアピールし、医師の参加を増やしていきたいと思います。

できないとは言いたくない

荻窪圏域：赤井　知高 医師（藤多クリニック）

自己紹介

子どもの頃から医者に憧れていました。大学の商学部を卒業して一度は企業に就職したのですが、夢を諦めきれず医者になりました。専攻は老年病科を選びました。特定の臓器だけでなく全身を診る医者になりたいと思ったからで、当時は自分の大学にはそういう医科が他にありませんでした。老年病科は大学病院のなかでも特殊な科で、市中の病院との関係が深く、外部との連携を経験することができました。おかげで、クリニックで在宅医療に携わるようになったときに、多職種の方々との連携に戸惑うことはありませんでした。現在は、藤多クリニック以外にも2つのクリニックを掛け持ちしていて、ほぼ毎日訪問診療に出ています。

趣味

サッカー、野球、テニスなど、ボールを使うスポーツ全般が好きです。大工仕事も好きで、診察室のパソコン台、壁際の観葉植物を飾る壁面やLED照明も自作です。家ではスキマ家具を作ったりしています。園芸や料理も得意です。医者は何でもできなくてはいけないと思い込んでいたので、「できません」と絶対言わないようにしていたら、こんな多趣味な人間になりました。

↑自作の壁面

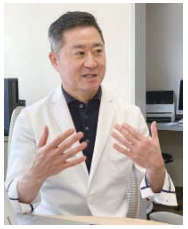
地域ケア会議について

荻窪圏域は以前から、事前アンケートの結果に基づいて話し合う方法を採ってきています。アンケートなら気兼ねなく意見を書けるので、広く意見を拾うには良い方法だと思います。それを改善に結び付けたいと思うのですが、まだ方向性が見えてきたくらいの段階です。私自身、一年間リーダー医師を務めて、やっと全体像がみえてきたところです。今年は、対面とオンライン各1回ずつ地域ケア会議を開催して、医療と多職種の専門の方、また行政との連携をより積極的に進めていければと思います。

診察室に愛犬!?

高井戸圏域：森谷　泰和 医師（森谷医院）

自己紹介



1969年に父が開業した森谷医院を10年前に引き継ぎました。付き合いの長い患者さんも多いですし、患者さんがお母さんになって、そのお子さんを診るということもよくあります。

訪問診療は、休診日の木曜や土曜午後などに行っています。かかりつけの患者さんで外来通院の難しくなった方や、ケア24（地域包括支援センター）から依頼された方もいます。外来がありますので、いつでも駆けつけるというのは難しく、自分が対応できないときに頼りになるのが、地域ケア会議で知り合った医師の方々です。高井戸圏域には浴風会病院がありますので、そちらの医師に電話でいろいろと相談にのっていただくこともあり、とても助かっています。

診察室のロボット犬

インターネットで医療機関を対象に、ロボット犬アイボの無償提供先（モニター制度）の募集をしていたので応募しました。患者に癒しを与える効果を測る一種の実証実験だと思います。赤ちゃんは怖がりますが、それ以外の患者さんの評判はとてもいいです。スタッフも癒されています。以前自宅で飼っていた犬の名前を付けて、私も可愛がっています。

地域ケア会議について

昨年度は、グループワークを同じ職種が集まるようにしました。コロナ禍で未知の問題に直面している中、同じような問題に他のみなさんがどうやって対応しているのか知りたい、というニーズがあったからです。今年度はどうするかまだ決まっていませんが、顔の見える関係づくりのために、医師の方々にも積極的に参加をお願いしていきたいと思います。ケアマネさんのなかには医師に電話することにためらいを感じる方もいます。会議で直接話して、「ああ、こんな感じの人」とわかっていると、協力し合う上で敷居が下がり、メリットが大きいと思います。

特技は内視鏡?

井草圏域：川瀬　直登 医師（井草内科クリニック）

自己紹介

名古屋市の隣の豊明市にある藤田医科大学を卒業し、岐阜、愛知、東京、千葉などの市中病院で消化器内科を中心に、臨床を経験しました。消化器の病気は身近な疾患で興味があったためです。特に内視鏡は、手術を含め実践的な訓練を重ねました。「井草内科クリニック」は開業してから9年目になります。外来診療が中心で、訪問診療は限定的に行っています。

趣味・特技

趣味・特技は、あえて挙げれば内視鏡ぐらいでしょうか（笑）。休診日も医師会の仕事などに時間を取られてしまって、打ち込めるような趣味はありません。ただ、お菓子やスイーツが好きで、何か新しいものが発売されたという情報を聞くと、デパートなどへ行ったついでに買ってきます。どちらかといえば甘党です。

↑特技（?）の内視鏡

地域ケア会議について

今年度の井草圏域の地域ケア会議については、6月に企画会議を私のクリニックで行い、1回目は11月に井草地域区民センターにおいて対面形式で開催することが内定しました。多職種連携における情報共有・連絡手段をテーマに、ICTの活用を中心に取り上げる予定です。在宅医療の多職種連携の必要性は今後増すと思いますが、外来中心の開業医にとっては、診療時間中に会合に出席することは難しいです。一方、介護系職種の皆さんは、夕方以降の時間帯は都合がつきにくいと思います。バイタルリンクのようなツールがあれば、自分の都合が良い時間にコミュニケーションできます。お互いの時間をあまり削らないで済むのではないかと思っています。

次号では、阿佐谷圏域（塩田医師）、西荻圏域（服部医師）、方南・和泉圏域（入谷先生）をご紹介します。

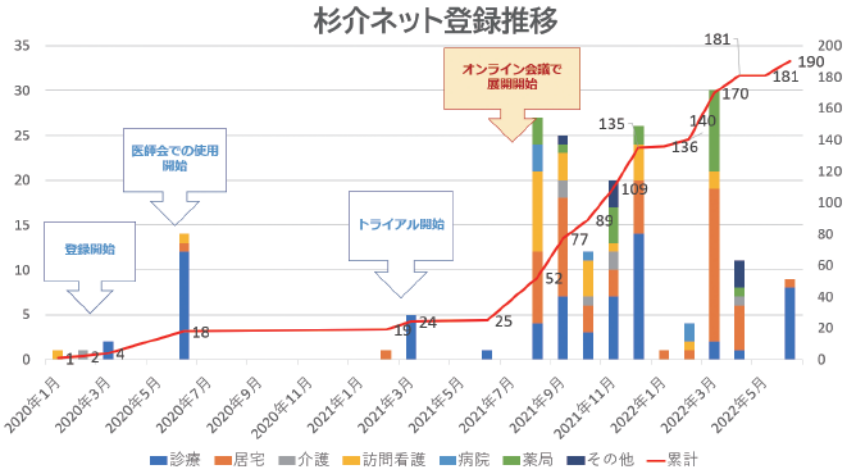
「杉介（すかい）ネット」登録数は着実に増加 ―多職種連携オンライン講習会

これまで継続的に紹介してきた杉並区医師会主催の多職種連携オンライン会議。昨年8月以来、杉並区多職種連携ICTシステム（愛称：杉介（すかい）ネット）の活用を軸にさまざまなテーマに取り組んでいます。

今年度最初の第7回（4月）は「バイタルサイン きほんのき」と題し、講習会形式で開催しました。杉並PARK在宅クリニックの田中公孝院長に、介護士などが体温や血圧、脈拍などのバイタルサインを見て、医療機関に連絡すべきかどうか判断する際のポイントなどをご講演いただきました。事例を交えたリアルな説明に、介護士だけでなく訪問看護師からも、「参考になった」との声が寄せられました。

第9回（6月）講習会のテーマはずばり「杉介ネットの活用法」。この取り組みを牽引するまごころクリニックの山口優美院長は、「登録はしたけれど、実際にどう使っていいのか戸惑っている方が、結構参加されたと感じています。そうした方々には有意義な回になったのでは」と、手ごたえを感じています。講習会に参加できなかった人のために、今後は動画配信も検討するとのこと。

同会議（講習会）の効果は大きく、杉介ネット登録数はグラフ（下図）で分かるように、着実に増加しています。グラフには反映されていませんが、今年6月末で196アカウントに達しているほか、歯科医師からの新規申請が8件あるそうです。今後も医療と介護の連携のために、杉介ネットが活用されることを医師会は期待しています。



大好評の「わたしの思い手帳」

東京都が2021年3月に発行したACP（Advance Care Planning＝愛称：人生会議）普及啓発小冊子「わたしの思い手帳」が大変好評です。都内区市町村の窓口で配布したところ反響が大きく、間もなく在庫切れとなって増刷したほどです。

ACPは「自分が病気になったり、介護が必要になったりしたときに、『自分はどう生きたいか』をあらかじめ考え、家族や大切な人、医療・介護ケアチームと繰り返し話し合い、自分の思いを共有する」（冊子から抜粋）ためのものです。実際には家族らと話し合いづらい内容ですが、“その時”はいつ来るか分かりません。冊子は、その時に慌てて、後悔しないように今のうちから準備しておくことを勧めています。

冊子はノートのセミB5判（252×179mm）、全64ページ。「こんなときどうすればいい？ ACPでよくある5つの場面」「実際にやってみよう!」「ACPってこんなに大事!～各専門家の立場から～」などで構成されています。例えば「一人暮らしの母と話すきっかけがない」というケースでは、「年末年始やお盆で帰省したとき、テレビで介護のことが取り上げられているとき、ご近所の方が亡くなられたときなどをきっかけに話し合ってみましょう」などとアドバイスしています。随所に漫画やイラストが挿入されていて読みやすくなっています。

杉並区在宅医療・生活支援センターやケア24（地域包括支援センター）などで配布されているほか、東京都福祉保健局のホームページからダウンロードすることもできます。

ダウンロードはこちら→

★次号は令和4年11月発行予定です。

〈編集・発行〉 杉並区在宅医療・生活支援センター（電話：5335-7317）